

笑顔で生き生きと

佐々木ツヨエさんが100歳顕彰

笑顔が絶えない佐々木ツヨエさんが、8月8日(月)に入所先の特別養護老人ホーム静和園で100歳の誕生日を迎え、町から顕彰状が贈られました。

佐々木さんは薄市に生まれ、薄市を離れることなくお惣菜屋を営み、5人の子ども達を育て上げたそうです。

現在は、食べ物の好き嫌いはなく、スタッフの声掛けには笑顔で返答され、3時のおやつには、大好きなチョコレートを食べ、喜ばれているそうです。

顕彰状を受け取ったツヨエさんは大きな声で「ありがとうございます」と感謝の気持ちを話しました。最後は親族の皆さんから祝福され満面の笑顔を浮かべていました。



ごみはどうやって処分されているの？

中里小4年生がごみ学習会を行う

中里小4年生が9月2日(金)に施設を見学してごみの処理過程を学ぶ「ごみ学習会」を行いました。

西部クリーンセンターで燃やせるごみが処分されるまでの過程をビデオや実際に職員が働いている場所を見学して学びました。

児童たちは「クレーンの操作を体験できて楽しかった」と話しました。

親子で協力して風車を浮かべる

親子で作ろう！浮かぶ風車in中泊

海と日本プロジェクト(日本財団)が主催となり、NPO法人青森風力エネルギー促進協議会と弘前大学の学生の協力のもと『親子で作ろう！浮かぶ風車in中泊』が9月11日(日)に開催されました。

まずエネルギーと風車の話をベルギーから来たウィリアム先生と弘前大学の学生から聞いた後、浮かぶ風車を親子で協力しながら作り、実際に海に浮かべました。

こどもたちは、自分たちで作った風車が海の上で浮かびながら勢いよく回ると、喜びの声を上げていました。



町の未来を考える

町長と小・中学生の意見交換会

中里小6年生が9月14日(水)、中里中生徒が16日(金)に町長と小・中学生の意見交換会を行いました。

子どもたちは、町の人口が減っていく中で町では何を行っていかようとしているのか聞き、自分たちには何ができるのか考えました。

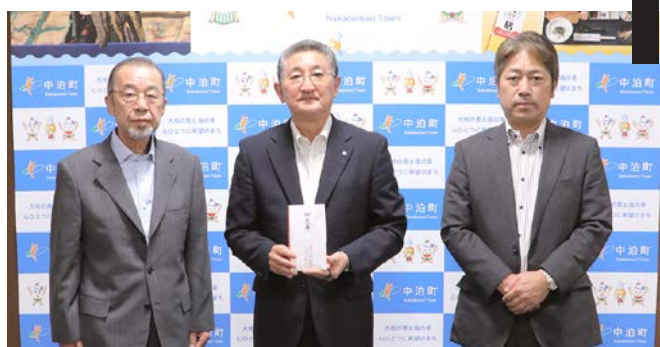
参加した児童・生徒は「町の未来をしっかりと考えることができた。自分たちには何ができるか探していきたい」と話しました。



中里小学校



中里中学校



復旧・復興に役立ててほしい

災害見舞金の寄附

株式会社外崎配管設備が9月14日(水)に、国際ロータリー2830地区内4ロータリークラブが15日(木)に町長のもとを訪れ、8月3日からの大雨災害の復旧事業に役立ててほしいと見舞金を贈呈しました。

町長は「今回の大雨で1件1件の被害は他市町村と比べると大きくはないが、全体で100件以上の住居の浸水被害など、町全体で見ると大きな被害を受けている。今回いただいた見舞金は一日も早い復旧・復興のために使わせていただく」と話しました。

また、9月16日(金)には車力歌謡クラブ「楽歌声の会」の会長鈴木敬二さんが吉幾三コレクションミュージアムで行った単独ライブの時に募金を募り、その際に集まった14,000円を寄付しました。

全国での活躍を誓う

中里中陸上部が表敬訪問

中里中陸上部の三橋陽大さん、加藤心春さん、中畑萌乃さんが町長のもとを訪れ、全国大会に出場することを報告しました。

三橋さんと加藤さんはJOCジュニアオリンピックカップ、中畑さんと加藤さんは青森県4×100メートルリレー選抜として、みんなでつなごうリレーフェスティバル2022に参加します。



いつまでもお元気で

令和4年度敬老会開催

長年にわたり社会に尽くしてきた長寿者を祝う敬老会が、総合文化センター「パルナス」で9月15日(水)に開催されました。

主催者を代表して町長は「元気な100歳を目指して健やかに笑顔で長生きしてほしい」と挨拶をしました。

今年度の顕彰対象者は、88歳長寿者95人、ダイヤモンド婚を迎えた夫婦は2組、金婚を迎えた夫婦は4組でした。



交通ルールを守ろう

秋の全国交通安全運動

秋の交通安全運動が行われ、9月21日(水)には、午前7時ごろから町長と関係者が津軽中里駅前交差点で通学する児童や生徒を見送りました。

秋から冬になっていき、日没時間が早まっています。ドライバーの皆さんは、ライトの早めの点灯にご協力ください。自転車利用者や歩行者の皆さんは、夜間外出をする際はライトの点灯や明るい服装、反射材の使用をお願いします。



1次産業の活性化を目指し

中泊さかなプロダクツ協議会設立

地域活性化・水産振興の向上と、人材育成・雇用の創出を図ることを目的として、9月21日(水)に中泊さかなプロダクツ協議会が設立されました。

この協議会は、8月3日に町・小泊漁業協同組合・日本風力開発(株)の3者で結んだ水産連携協定をより具体化したものです。鮮度の良い魚介類を加工し、魅力ある商品売っていくことを目指し、活動していきます。会長には橋本美保子小泊漁業協同組合婦人部部長が就任しました。

町長は「この協議会がメバル料理推進協議会と切磋琢磨しながら、1次産業を盛り上げていく羅針盤のようになっていければ」と話しました。

